

# シエラレオネの教育とユニセフの取り組みについて

2014年  
海外インターン派遣生  
鷺坂 史明



©日本ユニセフ協会/Fumiaki Sagisaka



**皆** さんは西アフリカの国、シエラレオネをご存知ですか？人口600万人程（2012年現在）の小さな国シエラレオネは、1990年代から2000年代にかけて内戦を経験し、その影響で一時は世界で最も平均寿命が短い国の一つとして有名になりました。18歳以下の人口が総人口の約半分にあたる約290万人を占める（2012年現在）この国において、子どもへの支援・教育への支援は大変重要な役割を担っています。

ユニセフシエラレオネ事務所は、保健と栄養、水と公衆衛生、教育、エイズ、人権保護など、多分野に渡って子どもの支援を行っています。教育分野では、初等教育を中心に、学校運営や教員養成、教育の量的拡大と質的充実、地域の教育運営システムの強化など、様々な側面の支援を行っています。

例えば、ユニセフでは就学年齢である6歳の子どもたちが学校へ通いやすくするための支援を行っています。シエラレオネの小学一年生の年齢分布を見ると、就学年齢通りに入学する生徒は全体の4割程で、約6割の生徒は就学年齢を超えてから小学校へ入学します。シエラレオネの

## シエラレオネの教育指標 (2012年)

|               |           |           |
|---------------|-----------|-----------|
| 小学校総就学率       | 男子 129.4% | 女子 120.1% |
| 小学校出席率        | 男子 73%    | 女子 75.6%  |
| 小学校最終学年までの到達率 | 92.5%     |           |
| 中学校出席率        | 男子 39.9%  | 女子 33.2%  |
| 15歳から24歳の識字率  | 男性 70.5%  | 女性 52.1%  |

[http://www.unicef.org/infobycountry/sierraleone\\_statistics.html](http://www.unicef.org/infobycountry/sierraleone_statistics.html) より引用

教育指標において、小学校の総就学率が100%を大幅に超えているのはそのためです。そこで、ユニセフでは、三つの試験プログラムを通して「6歳の小学一年生」を増加させる取り組みをしています。具体的には、①6歳の子どもがいる家庭へ子どもを就学させることを条件に現金給付を行う②6歳の子どもへ制服を支給する（シエラレオネの多くの学校で制服の着用が義務づけられており、これを準備できないために学校に通えない子どもたちが多くいます）③子どもの就学支援を行なっている地域社会の取り組みを物資の面で支援する（ペンやノートや靴など）の三つです。2013年～2014年に各試験プログラムで7千人程の子どもたちを支援し、最も効果のあったプログラムが2015年以降、全国に広げられる予定です。

この他に、ユニセフでは小学校の教育の質を改善するための支援を行っています。具体的には、同じ地域にある約12個の学校をグループ化し、学校が相互に助け合う制度（学校集団化制度School Cluster System）を作っています。この制度の下では、学校同士で、また学校と地域社会が連携して、学校運営の強化、施設環境の整備、授業の教授方法の改善に取り組んでいます。この制度の導入により、以下の様な教育の質の改善につながる成果が上がっています。例えば、地域の学校の教員同士の情報交換が進んで、より良い教授方法を研究・訓練する機会が増えたり、地域社会が学校運営に関わることで教員への監視の目が利いて教員の出席率が向上したり、地域社会が資源提供することでトイレや水飲み場の整備が進んだりしています。

今回はユニセフがシエラレオネの教育分野で取り組んでいるプロジェクトの一部を紹介させていただきました。シエラレオネの教育、そして子どもたちへの支援が抱える課題は大きく、また複雑ですので、一朝一夕に解決することはできません。長期的な視野に立って政府や地域社会と対話続けることで、より良い制度づくりに取り組み続けることが求められています。